■宇田川榕庵　　わが国への化学の本格的紹介，現在も使用される多くの語を創作，西欧諸科学の導入に尽くした。
うだがわようあん
古事記伝・・1798＝　　江戸呉服門外第一街で，江戸詰めの大垣藩医江沢養樹の長男に生まれる。

ﾛｼｱ船狼藉・ 1807＝ **9歳：**

ｺﾞﾛﾌﾞﾆﾝ拿捕 1811＝13歳：宇田川玄真(榛斎)に師事していた実父も婿養子だったこともあって，**_玄真の養嗣子となる。**

まず松下葛山に儒学を学び，漢方を能条保庵に，本草を井岡桜仙について修めた。
黒住教・・・1814＝16歳：漸く養父の許しが出て，馬場佐十郎に師事，オランダ語を学ぶ。さらに吉雄俊蔵，吉雄忠次郎にも学ぶ。

伊能測量終・1816**＝18歳：*初めて「寄非乙説」を訳し，コーヒーの産地・効用を説いた。**
杉田玄白没・1817＝19歳：**_津山藩医となる。**
水野忠成老中1818＝20歳：
群書類従刊・1819＝21歳：「譜厄利斯潟利塩考」(稿)，「和蘭薬鏡」(初編刊)，

英船浦賀来航1822＝24歳：***植物学で「菩多尼詞経」を刊行し，西洋植物学の基礎知識を明らかにする。以降3年かけて，養父玄真の著「遠西医方名物考」を校補して刊行。**
津山藩主が御家門であったことから玄真とともに幕府に重用され，シーボルトとも親交。
異国船打払令1825**＝27歳：**
・・・・・・1826＝28歳：***蕃書和解御用をもって幕府天文方に出仕，ショメール百科事典からの「厚生新編」翻訳事業に従事，昆虫学の分野を担当して，わが国昆虫学の祖となる。**
ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝30歳：**_以降3年かけ「新訂増補和蘭薬鏡」(5篇18巻)などを著わし，西洋薬学の導入に努め，**

富嶽三十六景1831＝33歳：この前後の研究ノート「植学独語」をもとに，
養父玄真の養生のために，津山近辺の温泉の効能を調べており，これが日本で初めて行われた温泉の泉質調査であったといわれている。
高島砲術・・1834**＝36歳：**養父玄真が死去。**_化学では，「遠西医方名物考補遺」を刊行して，ラヴォアジェの拓いた元素観を導入，**
滑稽+人情本 1835＝37歳：木内小繁・伊藤伊兵衛・小野蘭山・稲生若水らの逸話集や西洋植物学書解題を含む**_「植学啓原」を刊行。**
組織的な西洋植物学の概説「植学啓原」(3巻)に到る。
大塩平八郎乱1837＝39歳：英人ウィリアム・ヘンリー原著「化学大要」の蘭訳版の翻訳を基盤に，多くのオランダ語の化学書から新しい知見を増補したり，自身が実際に実験した結果からの考察などが追記，**_以後，没するまで「舎密開宗」を著作，この年初篇刊行。**
日本語のまだ存在しなかった化学用語として，酸素・水素・窒素・炭素・白金などの元素名や元素・酸化・還元・溶解・分析などの基本語，さらに，生物学用語の細胞・属など，現在もなお使用される多くの語を創出し，科学の普及に多大の貢献をしている。珈琲の語も考案したといわれる。
順天堂始・・1843**＝45歳：**
天保改革終・1844＝46歳：***多方面に才能を持ち，この年のオランダの歴史地理を解説した「和蘭志略稿」に続けて，オランダ語の度量衡に使用する単位についての解説した「西洋度量考」，各国通貨紹介した「西洋宝貨鑑」ばかりか，戯作「酔紅楓」「知古伝」まで著して，**
阿部正弘首座1845＝47歳：
ﾋﾟｯﾄﾞﾙ来航・1846＝48歳：**_結核症のため，没した。「舎密開宗」の刊行は翌年，内篇18巻・外篇3巻をもって完結する。**

「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，